

HOKKAIDO 不登校対策プラン (案) についての意見募集結果

令和6年(2024年)3月27日

「HOKKAIDO 不登校対策プラン (案)」について、道民意見提出手続により、道民の皆様からご意見を募集したところ、20人、18団体から、延べ76件の御意見が寄せられました。

御意見の要旨及びご意見に対する道の考え方については、次のとおりです。

I 不登校児童生徒への支援の基本的な考え方

意見の概要	意見に対する道の考え方※
本プランの柱が、「不登校により学びや支援にアクセスできない子どもたちをゼロ」にすることとしており、「不登校をゼロにする」としていない点が、意義があると思いますし、本プランの基本的な方向性に賛同いたしますし、ぜひ少しでも実を結んでいただきたいと考えます。	御意見と案の内容の趣旨が同様と考えられることから、現状のままとします。 B
「『学校に登校する』という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること」につきまして、あらためて生徒たちの「学び」とは何か、学校における「学び」とは何かを考えるよいきっかけになると思います。	「I 不登校児童生徒への支援の基本的な考え方」の支援の目標の中に、社会的自立の考え方を追記します。 A

II 本道の公立学校における不登校の状況と課題

1 問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果(文部科学省)	
(1) 本道の公立小・中学校、高等学校における不登校児童生徒数 教室内に無線LANが設置された為に、電磁波過敏症の子が登校できなくなった。	パブリックコメント実施の趣旨と異なるため、回答できません。 D
(1) 本道の公立小・中学校、高等学校における不登校児童生徒数 「II 本道の公立学校における状況と課題」を読んでいると、不登校への対応は全てが学校で、多くの課題を抱える学校がさらに取り組まなければならないという思いを抱く。教育委員会をはじめ、関係機関のサポートや専門スタッフの派遣、加配措置がなされたりすることはとても心強くありがたい。全ての学校が均等に迅速かつ時宜にかなうようサポートいただけることを強く望む。民間団体の活用は、これからその役割と位置付けが更に求められてくると考える。	「I 不登校児童生徒への支援の基本的な考え方」に、関係機関等との連携体制について追記します。 A
(1) 本道の公立小・中学校、高等学校における不登校児童生徒数 不登校の原因は、その見極めが必要で学習での躓きや人間関係など多岐にわたる原因を聞き取り状況の把握に努めるのは重要。保護者の思いや児童生徒の声を、専門的に聞ける人材が必要。教育支援センターの早期設置と人材の確保。児童生徒の育ちを見立てる機関との連携も必要。各機関との連携が必要。	御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。 C

<p>(1) 本道の公立小・中学校、高等学校における不登校児童生徒数</p> <p>「適切なアセスメントに基づき」の部分をもっと掘り下げる必要がある。「幼」⇒「小」、「小」⇒「中」への『校種間のアセスメントの適切な引き継ぎ』をもっと重点の1つに加え具体的な引き継ぎの仕方を明示できないかと思います。</p>	<p>「I 不登校児童生徒への支援の基本的な考え方」に、校種間の引継ぎについて追記します。</p> <p style="text-align: right;">A</p>
<p>(1) 本道の公立小・中学校、高等学校における不登校児童生徒数</p> <p>不登校の要因の分析と不登校をできるだけ抑える努力の両方を続ける必要があると考えます。</p>	<p>御意見と案の内容の趣旨が同様と考えられることから、現状のままとします。</p> <p style="text-align: right;">B</p>
<p>(1) 本道の公立小・中学校、高等学校における不登校児童生徒数</p> <p>学習内容の削減、授業時数の削減、教職員定数を増やすことなど、根本的な部分から見直さなければ、こうした傾向は改善されることなく現状はさらに悪化することが予測できる。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>(1) 本道の公立小・中学校、高等学校における不登校児童生徒数</p> <p>調査を辞め、宿題をなくす、テストをなくす、課外活動をなくし、児童生徒が先生の仕事を担う（児童生徒に仕事をもたせる）ようにしていくのがプランの目的達成に近づくと思います。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>(2) 義務教育段階の不登校児童生徒数（学年別）の推移</p> <p>日本で教育を受け、今はイギリスに住んで娘はこちらの小学校に通っていますが、日本と比べると、イギリスの学校はなんとも緩いなと思いました。もちろん、こちらの学校でも日本ほどではなくとも「全体主義的」「権威主義的」な傾向はあります。また優越を決める機会も多く、点数で子どもが評価され、競争が当たり前の社会の基盤となっています。</p>	<p>パブリックコメント実施の趣旨と異なるため、回答できません。</p> <p style="text-align: right;">D</p>
<p>(2) 義務教育段階の不登校児童生徒数（学年別）の推移</p> <p>現行「学習指導要領」が始まり、学習の内容・授業時数が増加した中、理解できていなくても計画通りの進度で行わざるを得ない状況で、「勉強がわからない」「学びへの意欲がわからない」という子どもが増えていることの分析がなされていません。「全国学力調査」の対策として1年を通して「チャレンジテスト」に取り組みされたり、膨大な宿題を出されたりしている子どもたちの現状を見つめるべきです。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>(2) 義務教育段階の不登校児童生徒数（学年別）の推移</p> <p>教育機会確保法第13条の「学校以外の場において行う多様で適切な学習活動の重要性」についても学校現場で十分周知されているとはいえ、フリースクール等の情報を知らない教員が多いために、情報が保護者に周知されず対応が遅れがちです。また「親の会」等の民間団体との連携もまだ不十分ですので、これらの重要性について学校現場への周知をお願いいたします。</p>	<p>「I 不登校児童生徒への支援の基本的な考え方」に、家庭や保護者の支援について追記します。</p> <p style="text-align: right;">A</p>

<p>(8) 不登校の要因（令和4年度における全国との比較） 一刻も早く30人以下学級をめざすべきである。そうすれば、子どもたち一人一人に寄り添う時間と心の余裕が現場に生まれるし、他の団体との連携もスムーズにすすめられる。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>(8) 不登校の要因（令和4年度における全国との比較） 北海道教育委員会の施策として、ゆとりのない学校づくり、学力競争の学校づくりをしてしまっているという観点が必要だと思われます。そこがないままに、「各学校においては、『誰もが活躍する機会のある授業』、『いじめや不適切な指導を許さない学校』を実現し、学校を『みんなが安心して学べる』場所にすると」言われ、学校にのみ責任を押しつけても問題の解決に至らないと思います。</p>	<p>御意見と案の内容の趣旨が同様と考えられることから、現状のままとします。</p>	B
<p>(8) 不登校の要因（令和4年度における全国との比較） プランを全面的に支持したいと思います。不登校対応の目指すべきところは、学校に戻すことではなく、もっと先の社会的自立にあると思います。そのためには校内外の連携や支援が必要です。細やかな対応をするには学校だけでは教員が疲弊してしまいます校内における人員確保は言うまでもありませんが、ボランティア頼みから脱却し、職員として迎え入れチームをつくるのが有効と考えます。</p>	<p>御意見と案の内容の趣旨が同様と考えられることから、現状のままとします。</p>	B
<p>3 令和2年度不登校児童生徒の実態調査結果（文部科学省）</p>		
<p>(1) 最初に行きづらいつ感じ始めたきっかけと最初のきっかけとは別の学校に行きづらくなる理由 学校が調査すると生徒児童本人の「怠学」などを理由とすることが多いが、実態としてはやはり学校側の問題が大きいと思われる。ただし「学校」は、国・道の教育施策によって振り回されており、教職員個人の責任を追及しても根本的な解決にならないだろう。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>(1) 最初に行きづらいつ感じ始めたきっかけと最初のきっかけとは別の学校に行きづらくなる理由 不登校についての周囲の無理解や不適切な対応によって、児童生徒がそのような状態に追い込まれたため生じます。「原因と結果の取り違え」が不登校に対する誤解や偏見を生みますので、10～14ページの内容を学校関係者に周知いただくようお願いいたします。</p>	<p>御意見と案の内容の趣旨が同様と考えられることから、現状のままとします。</p>	B
<p>(1) 最初に行きづらいつ感じ始めたきっかけと最初のきっかけとは別の学校に行きづらくなる理由 P.10の理由をぜひ学校現場に周知願います。いまだに「学校に来られないのは本人、家庭のせい」と受け止められ、傷つく保護者が多いためです。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>4 不登校の要因の聴き取り（道教委）</p>		
<p>(1) 学校の教職員、教育支援センターの指導員等への聴き取り 「学校の風土」や「教員の指導」にある要因については、小中の引継ぎでは具体化されないことも多く、双方の校種で情報を共有したり改善を図ったりさせる重点にもっとクローズアップさせるとよいと感じました。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C

<p>(2) フリースクール等の民間の相談指導施設の職員等への聴き取り</p> <p>全国の「不登校特例校」は、始業時間を遅くしたり、授業時数を少なくするなどの対応をしている。全ての子どもたちにとってゆとりのある学校となるよう、北海道が独自できること、文科省に要望をあげることを整理して、教育施策そのものを見直すこと、フリースクールなどへの助成を増やす必要がある。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>(2) フリースクール等の民間の相談指導施設の職員等への聴き取り</p> <p>現行「学習指導要領」が始まり、学習の内容・授業時数が増加したことや、「全国学力調査」の対策として1年を通して「チャレンジテスト」へとりくまされていることなど、学校のゆとりを奪う学力偏重の教育施策そのものに問題があります。早急に見直す必要があると考えます。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>(2) フリースクール等の民間の相談指導施設の職員等への聴き取り</p> <p>すべての子どもたちにとってゆとりのある学校となるよう、北海道が独自でできること、文科省に要望をあげることを整理して、教育施策そのものを見直してください。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C

### Ⅲ 対策プランについて

<p>目標指標をすべて「100%」と設定し、達成が難しい場合に学校に指導をして圧力をかけるようなものであってはならないと考えます。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>働き方改革が叫ばれる中、未だに各種調査が多く、子どもと接する時間や教材研究を行う時間が取れない。現場で把握できていればよいものは、現場に任せてほしい。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>ICTの活用などで効率化を図ることも有用と思いますが、「教育は人なり」と言われるように、教員定数を含めてマンパワーを増やし、人材の育成に努めることが必要ではないかと考えます。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>不登校の背景に「不登校となった要因が〔本人に関する要因〕のみと考えられていたケースであっても、実際には、不登校対策では「学校内」の視点のほかに「学校外」の視点を持つことが欠かせません。そうした視点に立って、いわば学校の困り感に寄り添える地域（社会）の存在を強調してもよいのではありませんか。たとえば、コミュニティ・スクールの役割と不登校対策との関係を具体的に盛り込んでもよいと考えます。</p>	<p>「Ⅰ 不登校児童生徒への支援の基本的な考え方」の「支援の方向性」に、コミュニティ・スクールの仕組みを活用した連携・協働について追記します。</p>	A
<p>不登校はいじめや発達障害（生徒の特性）と密接な関係があることから、これらのことを含めた複合的な研修を進めていくことも重要だと考えます。</p>	<p>御意見と案の内容の趣旨が同様と考えられることから、現状のままとします。</p>	B

対策プラン01 学校の風土を「見える化」し、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする	
年度当初に学校・学級の環境を整備するために、「チャレンジテスト」等の調査については、実施をしない、少なくとも、「実施を5月以降にする」「〆切を5月末まで伸ばす」などの配慮が必要です。	御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。 C
4月学級内での交流や休み時間など学習以外の時間がとても重要になってくる。友達との関係性を回復することの方が大切ではないか。きっとその子は、自分の存在場所はここだと気づき、自分の意志で後れを取り戻そうと頑張るようになるはずだ。	御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。 C
児童生徒の状況において対策プランが「01, 02, 03, +α」と整理されていることは、学校や教委・センターが取組む指針として分かりやすいものとなっていて、よい。教育委員会でR6目標値を100%にしていることはよいと考えるが、そのための手立てが明らかにされていない。学校に働きかけるだけでいいのだろうか。	御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。 C
じっくりと子どもたちと向き合える時間の確保は急務であり、子どもたちもそうした教師とかかわりあえる時間を求めている。	御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。 C
教職員と生徒、教職員と保護者の間で対話を大切にし、信頼関係を築く取組みを行っていただきたい。生徒や保護者に適切な情報提供を行い、知識と支援の手引きを提供して欲しい。支援団体など、地域と連携を密にし、「気付き」に対して声を出しやすい様に研修を行って欲しい。	御意見と案の内容の趣旨が同様と考えられることから、現状のままとします。 B
札幌市として以下に取り組んでいただければと思います。① 少人数学級の推進、② MLA(Multi Level Approach:包括的生徒指導プログラム)の導入検討、③ UDL(Universal Design for Learning:多様な学習環境整備)の導入検討	本プランは、札幌市(政令指定都市)を除く公立学校を対象としていることから、回答することができません。 D
残念ながら今でも不適切な登校刺激によって追い詰められるご家庭からの相談が後を絶ちませんので、学学校現場に同法の内容をしっかりと周知徹底するようお願いいたします。	御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。 C
北海道教育大学教職大学院の小沼准教授が提唱する「いじめの避難訓練」のような取り組み、ロールプレイングなどの言語化の動作化が学校での授業のどこかにあるとよいのではないかと考えます。	御意見と案の内容の趣旨が同様と考えられることから、現状のままとします。 B
対策プラン02 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する	
現場は、これまでの教育行政の結果として、膨大な時間外労働と、慢性的な人手不足によって崩壊寸前です。子どものSOSに気づき、十分な対応をとるためには、業務改善と人員増こそ急務だと考えます。	御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。 C
調査をすることで、進捗状を評価することも理解できるが、調査が増えることが学校の負担増にならない配慮を望む。	御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。 C
「チーム学校」は、教育相談コーディネーターやスクールカウンセラーなど居てくれたら安心ですが予算がつかない自治体では働き方改革と共倒れです。道教委、文科省から配置義務にして欲しい。	御意見と案の内容の趣旨が同様と考えられることから、現状のままとします。 B

<p>コーディネーター自身も授業があり、担任をしているなど、今まで以上のさらなる業務の負担が増しており、多忙化に拍車がかかる状況である。新たな職を増やすのであれば、専属の担当コーディネーターを定数にプラスして加配すべきである。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>生徒や教職員が抱える悩みや心の声に対して敏感に対応する意識を高めて欲しい。例えば、関係団体は多数存在するが、その研修会などに積極的に参加して欲しい。参加者は全員ボランティアで生徒のために行っている。教職員も同様に参加して欲しい。教育委員会は、学校と教育機関との連携を強化し、早期発見する環境を作れるように連携を強化するためにリーダーシップをとって欲しい。「チーム学校」には、ぜひ地域の関係団体取り入れたほうが良いと思う。</p>	<p>御意見と案の内容の趣旨が同様と考えられることから、現状のままとします。</p>	B
<p>札幌市として以下に取り組んでいただければと思います。養護教諭の複数配置の徹底、SSWの人数増、授業等への学習サポートをできる安心の体制づくり（教育委員会登録ボランティアの普及など）</p>	<p>本プランは、札幌市（政令指定都市）を除く公立学校を対象としていることから、回答することができません。</p>	D
<p>「チーム学校」として、外部の専門職（他の児童相談所や警察、サポートセンター、教育支援センター等）との連携の具体について学校の管理職が十分に理解できていないケースもあると考えます。「チーム学校」が内向きにならず、「社会に開かれたチーム」となることを期待します。</p>	<p>御意見と案の内容の趣旨が同様と考えられることから、現状のままとします。</p>	B
<p>「チーム」とは、親は日本の国で県や市町村は兄弟、学校やチームメイトや保護者は友達、児童生徒は全員自身の子どもだと思って、助け合えたら楽しいです。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p><b>対策プラン 03 学びの場を確保し、学びたい時に学べる環境を整備する</b></p>		
<p>無線 LAN で長時間オンライン授業を受けるのは、健康に好かない事を周知すべきである。電磁波過敏症の子や、家にネット環境が無い家庭もある。電磁波過敏症の子の為の、端末を使わない教室も設けるべきである。</p>	<p>パブリックコメント実施の趣旨と異なるため、回答できません。</p>	D
<p>不登校の子は、図書館に通ってれば、学校に通うよりも特定の分野で、高い学力を身に付ける事も出来る。図書館の司書と司書舗による、不登校生徒向けの、読書相談会を週2、3回設けるべきである。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>「校内教育支援センター」の設置進は重要と考える。実施にあたっては、現場に委ねるのではなく、人的配置増も含め検討の上、早急に促進を願う。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>学校として校内にサポートルームを設置し対応するのであれば、専属の担当者を随時配置しておく必要がある。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>地域によってはまだまだ ICT が進んでいるとは言えない。必要な場合に適切な支援を提供できるように教育関係者の教育をもっと充実していただき、教育関係者の研修や支援に対する支援体制の整備を行っていただきたい。</p>	<p>御意見と案の内容の趣旨が同様と考えられることから、現状のままとします。</p>	B

<p>札幌市として以下に取り組んでいただければと思います。学内外の支援情報提供の充実、子どもの権利を守るための第三者機関(相談と介入)の設置(例えば札幌市の子どもの権利アシストセンター等)、民間のフリースクール等の運営の安定化</p>	<p>本プランは、札幌市(政令指定都市)を除く公立学校を対象としていることから、回答することができません。</p>	D
<p>フリースクール等への財政支援について、全国的にも「信州型フリースクール認証制」のような取り組みが広がっていますので、道教委としても具体的な検討をお願いいたします。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>今後ホームスクールの重要性も増すと思いますので、このことの査・検討に着手いただければ幸いです。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>フリースクールが公立小、中学校に比べ高額であることから、行きたくてもいかせられない家庭は実は多いと感じております。助成金を交付することをご検討ください。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>内申点などの問題で公立校の受験が困難な場合の受験方法の見直し、やむを得ず私立校を受験した場合の入学金等の助成、またはそういった生徒に対し別の入試方法の選択肢を用意、さらに公立高校においては困り感を待つ生徒のサポートを掲げる科を設けるなど、対策が可能ではないかと考えます。</p>	<p>パブリックコメント実施の趣旨と異なるため、回答できません。</p>	D
<p>通信高校以外にも、人と接することにより成長が望めることもあるはずですので、困り感を待ち支援級のような個別の支援を必要とする生徒のための学校、カリキュラムを公的な居場所の中で作り出していただくことで、取りこぼされてきた可能性のある若者をすくい出せるのではないかと考えます。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>登校できない児童生徒に対し、家庭教師を無償でつけることで学びの遅れを生じさせないことは、本人の自信を落とすことなく不登校の時期を過ごし、不安なく学校生活へ戻ることもできるのではないかと思います。</p>	<p>パブリックコメント実施の趣旨と異なるため、回答できません。</p>	D
<p>どの子どもも平等に、個性を受け入れられながら楽しんで学習を受け、認められる学校教育とはどのようなものなのか、北海道にもそのような教育を受けることのできる場所が増えるよう願っています。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>不登校の「親の会」の存在を周知願います。外部機関との連携とありますが、「保護者の会」「親の会」と明記願います。COCOLOプランにも、「保護者の会」が紹介され、認識されていますが、まだ知らない方多い印象。また、保護者の意見を聞く場所を作っていただきたいです。</p>	<p>御意見と案の内容の趣旨が同様と考えられることから、現状のままとします。</p>	B
<p>フリースクールの費用、家庭への補助金を希望します。保護者の意見を聞いた上で、「対応フォーマット」があると嬉しいです。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>今後、保護者の会やフリースクール等ネットワークなど、関連した場所への周知を希望します</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C

<p>今回の対策プランには保護者の精神的負担を軽くするような支援を盛り込んでおり、大変有り難いことと感じていますし、同時に経済的負担も減らして頂けることを、切に願っています。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>学習支援員がどれぐらいの人数・時間関わるのが有効かというデータが全国のどこかにあるのではないかと推察します。予算が必要になる取り組みですが、ぜひご検討をお願いいたします。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>不登校の対策が子どもたちそれぞれのこのような困難を拾い上げていけるように、予算と人員をつけていただきたいと願います。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p><b>対策プラン+α 実効性を高める取組</b></p>		
<p>学校と多職種の専門家とチームを組むことにより業務が増えることにも繋がりがねない。ある段階で委ねるといった視点があってもいいと考える。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>2「切れ目のない支援の実現」の項目に、適切なキャリア教育（進路指導）に関する記述を加筆してはいかがでしょうか。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>学校と学校外部との連携では、学校はデータ協力、取組主導は外部ぐらいにしないと効果が期待できないように考えます。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>教頭職の負担感を軽減する対策も必要です。併せて、「推進地域に加配教員を配置」とありますが、早期に十分な加配措置を希望します。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>道内各地の先進事例を各市町村教委や学校現場にお知らせし、取り組みを働きかけていただくようお願いいたします。</p>	<p>御意見と案の内容の趣旨が同様と考えられることから、現状のままとします。</p>	B
<p>子どもにどんな力を育てていくとよいのか？という目標があいまいで単に不登校の子どもの受け皿になっている実態があります。もう少し学校と関係機関の連携を密にしていく必要があると思います。</p>	<p>「I 不登校児童生徒への支援の基本的な考え方」に、関係機関との連携体制について追記します。</p>	A
<p><b>その他（全体を通した意見など）</b></p>		
<p>「チーム学校」として「不登校」問題をどう考えるかの力とならないと思います。「管理教育」の今のあり方そのものにメスを入れなくては形ばかりの対策にしたならないと思います。根本から考える必要があります。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>不登校対策に関して、学校が抱えている課題と対策について体系的にまとめられており、管理職及び教職員にとって活用しやすい資料です。</p>	<p>御意見と案の内容の趣旨が同様と考えられることから、現状のままとします。</p>	B
<p>各対策プランが実効性あるものとなり、家庭、学校、地域社会が一体となって不登校対策に取り組んでいくことができるよう期待するとともに、教職員の一人としてしっかり取り組んでいきたいと考えています。</p>	<p>御意見と案の内容の趣旨が同様と考えられることから、現状のままとします。</p>	B



<p>学校、クラスの少人数化を願います。1人の先生に対して子どもの数が多すぎることで、先生も子どもも苦しうにみえます。</p>	<p>御意見については、今後の施策等の参考にさせていただきます。</p>	C
<p>授業の中で遊んだり、時間を短くしたりしてほしい。</p> <p>(小学生)</p>	<p>プラン1では、学校の様子や授業の満足度などを調べ、クラスが安心して楽しく過ごせる雰囲気になるような居場所づくりを進めることとしています。毎日の授業が楽しいものになるよう、先生向けの研修なども行っていきます。</p>	B
<p>みんなで外で遊ぶなど、先生が決めたルールの意味が分からないので、分からないことは分かるように教えてほしい。</p> <p>(小学生)</p>	<p>プラン1では、学校の様子や授業の満足度などを調べ、クラスが安心して楽しく過ごせる雰囲気になるような居場所づくりを進めることとしています。毎日の学校生活が楽しいものになるよう、先生向けの研修なども行っていきます。</p>	B
<p>先生が大声でどなるのをやめてほしい。</p> <p>(小学生)</p>	<p>プラン1では、毎日の授業や特別活動で、クラスが安心して楽しく過ごせる雰囲気になるような居場所づくりを進めることとしています。毎日の学校生活が楽しいものになるよう、先生向けの研修なども行っていきます。</p>	B
<p>家庭訪問の時間が短いので、家に来たときに勉強を教えてほしい。</p> <p>(中学生)</p>	<p>プラン3では、不登校の子どもが学びたいと思った時に学べるよう、どんなことをしたいかという希望や願いを聴きながら、一番合った方法で支えていくよう示しています。家庭訪問やオンラインなど、子どもに合った方法を見つけられるよう支援していきます。</p>	D

※「意見に対する道の考え方」のA～Eの区分は次のとおりです。

A	意見を受けて案を修正したもの
B	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	案を修正していないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの
D	案に取り入れなかったもの
E	案の内容についての質問等

問合せ先  
 北海道教育庁学校教育局  
 生徒指導・学校安全課（生徒指導係）  
 電話 011-231-4111(内線 35-672)